

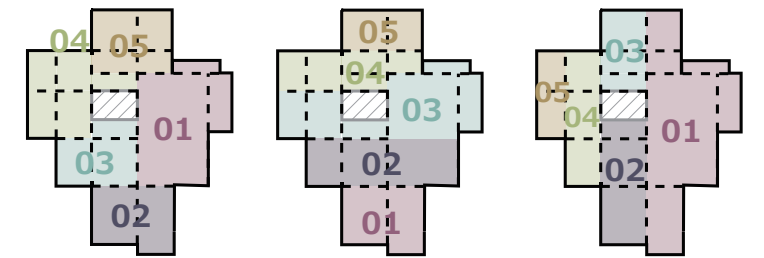
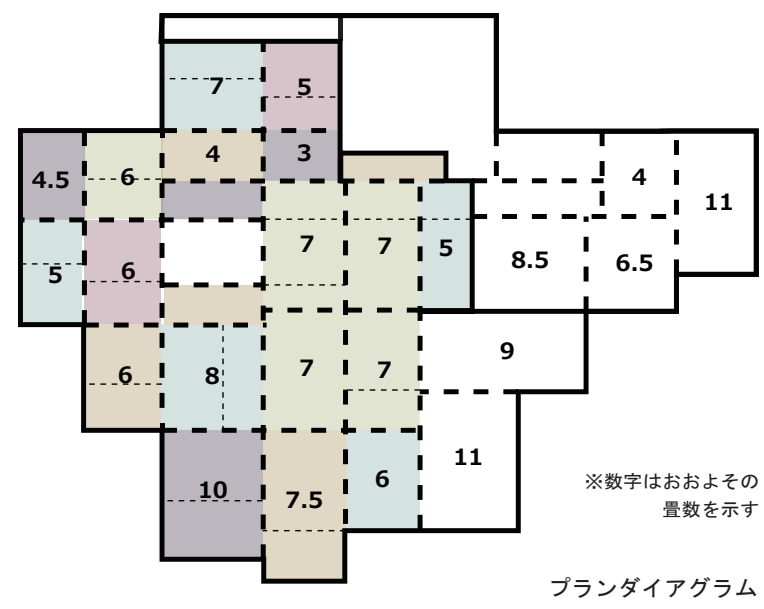


そらいろ保育園

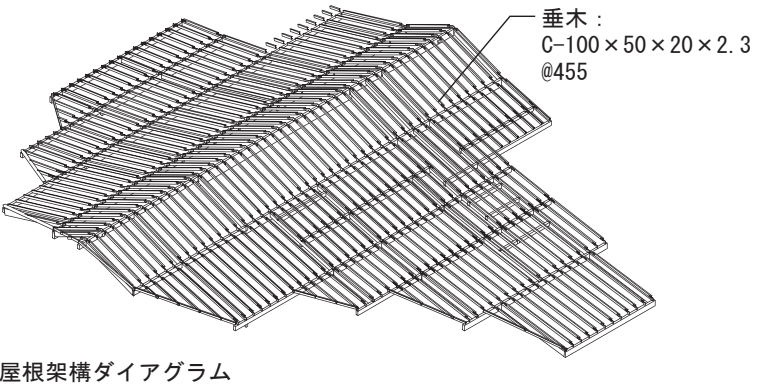
—大樹の下で旅する居場所—

柔軟で変化のある保育園

雁行しながらひとつなりに回遊する保育室の平面は、可動式の低い家具や遊具によって形状を自由に変更ができる。家具や遊具が園内を移動し、場所を変えながら各々の部屋をつくるための境界となりつつも、見通しを遮ることなく広がりのある保育室となっている。運営の面からも変化する園児数や職員の人数に応じて家具の位置の見直しを行うことでその時々にかわしい空間分けを可能とする。ソフトとハードの要素が組み合わさることで日常のなかでも常に動きと変化があり、毎日新しい発見があるような保育園となることを目指した。



南北方向に下りながら徐々に勾配が変化する屋根の下に回遊性のある保育室を作ること、一体的な保育室の中に天井の高い場所や低い場所ができる。メインフレームを木造とし、全ての垂木をC型鋼で構成している。加えて野地板に硬質木片セメント板を採用し、準不燃性能とすることで、大きな屋根の骨格である構造フレームをあらわした上で、内装制限への対応を行った。また架構にスチールと木をつかうことで空間にメリハリを与えている。単なる屋根架構のみならず、「やわらかな境界」をつくり出しつつも一体的なつながりのある内部空間となっている。



敷地条件と園の位置づけ

この保育園は熊本県の中央部に位置する宇城市に開園した企業主導型保育園である。同敷地内で福祉施設を運営する株式会社ラディカにより運営されており、企業関連職員の子供と一般の子供が園に通っている。併設する地域交流カフェは地域の方々・職員・介護施設利用者・園児の保護者の休憩や交流の場所として、地域における多世代交流の憩いの場となっている。

